

信 楽 高 原 鐵 道 株 式 会 社

令和6年度事業計画

信楽高原鐵道 株式会社

1 基本方針

昭和62年7月に第三セクター鐵道として開業し、また、平成25年度からは公有民営方式への変更により、列車の運行のみを行う第二種鐵道事業者へと移行した。その後、台風災害に伴う長期運休やコロナ禍に伴う輸送人員の激減などを経験しながらも、地域の公共交通機関としての役割を果たしてきたところである。また、平成25年度から開始した鐵道事業再構築実施計画は、令和4年度で計画期間が終了したが、令和6年2月には、新たな鐵道事業再構築実施計画の認定を受けることができた。

当社は引き続き、第三種鐵道事業者である甲賀市と連携しながら、安全で安定した運行により、地域の暮らしや産業を支える公共交通機関としての役割を果たすため、さらなる運営基盤の強化を進める。今後も安定した運営を確保するため、アフターコロナの社会情勢や長期的な人口減少に対応した事業構造の確立をめざし、地域住民の利用促進と観光誘客、付帯事業の拡大による収入確保に努めるとともに、物価高騰等にも対応した効率的な事業運営に努め、全社員一丸となって経営改善を継続する。

2 事業計画

(1) 鐵道事業

コロナ禍を契機とした生活様式の変容による移動需要の減少や、原油価格をはじめとする物価の高騰、長期的な沿線人口の減少等、厳しい経営環境が続いているが、引き続き、地域住民の利用をさらに促進していくほか、新たな観光商品・企画商品の開発、営業活動等をより積極的に展開し、新規需要の創出に取り組む。特に令和6年度は、オリジナルヘッドマーク事業の商品化、イルミネーション企画等を行うほか、甲賀市内鐵道駅入場券セット販売やイメージキャラクター「わたぬき忍」との連携等、関係団体と連携した新たな鐵道関連収益事業の開発、検討を推進する。

また、鐵道施設の安全確保のため、施設を所有する第三種鐵道事業者である甲賀市において、枕木や軌道道床等の線路設備の整備、車両検査、橋梁の塗装等を実施する。

(2) 付帯事業

駅構内の店舗の賃貸、レンタサイクルの利用促進等に努める。

収 支 予 算 書

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
1 営 業 収 入	170,776	171,088	△ 312	
旅 客 収 入	77,590	76,758	832	
受 託 収 入	82,285	84,479	△ 2,194	
運 輸 雑 収 入	10,901	9,851	1,050	
2 営 業 外 収 入	378	378	—	
収 入 合 計	171,154	171,466	△ 312	
1 営 業 費 用	164,051	162,966	1,085	
人 件 費	90,735	85,000	5,735	
修 繕 費	33,452	36,710	△ 3,258	
動 力 費	9,600	9,600	—	
経 費	24,912	26,996	△ 2,084	
諸 税	2,900	2,860	40	
減 価 償 却 費	2,452	1,800	652	
2 営 業 外 費 用	6,075	5,919	156	
費 用 合 計	170,126	168,885	1,241	
経 常 損 益	1,028	2,581	△ 1,553	
税 引 前 損 益	1,028	2,581	△ 1,553	

令和 5 年度 事業報告

信楽高原鐵道 株式会社

1 事業概要

当社は第三セクター鐵道として、安全で安定した地域公共交通の確保および利用者の拡大に努めてきたが、経営安定化を図るために、平成25年4月1日に公有民営方式に移行し、鐵道施設等の保有と運行の双方を行う第一種鐵道事業者から、鐵道施設等を保有する甲賀市より貸与を受けて列車の運行のみを行う第二種鐵道事業者に転換した。

令和5年度においても、安全・安定運行を第一に、第三種鐵道事業者である甲賀市との連携のもと、施設整備を着実に行ったほか、アフターコロナの社会情勢を受けて、観光誘客を含む利用促進の取組を強力に展開した。

2 事業実績

(1) 鐵道事業

ア 旅客輸送事業

① 輸送人員

344,958人（うち定期 231,480人、定期外 113,478人）

前年度と比べ、1.7%（5,847人）増となった。

② 旅客輸送収入

75,824千円（うち定期35,374千円、定期外40,450千円）

前年度と比べ、0.1%（62千円）減となった。

イ 誘客事業

地元利用客および観光客の利用増加を図るため、以下の事業を行った。

① 甲賀忍者をテーマにしたラッピング列車の運行

② 滋賀県立陶芸の森と連携したリサ・ラーソン展をテーマにしたラッピング列車の運行

③ 滋賀県立陶芸の森と連携したトレイン&ミュージアム共通チケットの販売

④ 信楽高原鐵道利用促進協議会との連携による「陶製干支切符」の販売

⑤ 近江鐵道株式会社との連携による「びわこ京阪奈線フリーきっぷ」の販売

⑥ スマートフォンアプリを利用した乗車券の販売

⑦ サンタ列車の運行

⑧ ひな祭り列車の運行

⑨ 修景事業として、うしかい田んぼアート実行委員会との連携による田んぼアート

⑩ 信楽高原鐵道文化祭の開催

(2) 付帯事業

ア 駅構内店舗の賃貸事業

イ レンタサイクル事業

損 益 計 算 書

自 令和 5 年 4 月 1 日
至 令和 6 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	金 額	
鉄 道 事 業		
営 業 収 益	169,362,752	
営 業 費	166,388,393	
営 業 利 益		2,974,359
付 帯 事 業		
営 業 収 益	4,682,475	
営 業 費	1,407,340	
営 業 利 益		3,275,135
全 事 業 営 業 利 益		6,249,494
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	2,324	
そ の 他 の 収 益	6,843,754	6,846,078
営 業 外 費 用		
そ の 他 の 費 用	11,567,971	11,567,971
経 常 利 益		1,527,601
そ の 他 特 別 利 益	9,999	9,999
そ の 他 特 別 損 失	—	—
税 引 前 当 期 純 利 益		1,537,600
法人税・住民税及び事業税		304,648
過 年 度 法 人 税		—
当 期 純 利 益		1,232,952

貸 借 対 照 表

令和 6 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流 動 資 産	148,224,255	流 動 負 債	35,937,284
現 金 ・ 預 金	105,949,368	買 掛 金	9,624,548
未 収 運 賃	441,060	未 払 金	1,530,740
未 収 金	38,938,920	未 払 法 人 税 等	1,693,500
棚 卸 商 品	1,446,998	未 払 費 用	16,578,215
貯 蔵 品	723,529	預 り 連 絡 運 賃	492,210
そ の 他 流 動 資 産	724,380	預 り 金	1,173,241
固 定 資 産	18,264,429	前 受 運 賃	1,717,800
鉄 道 事 業 固 定 資 産	3,586,913	未 払 消 費 税	3,109,600
有 形 固 定 資 産	2,966,776	そ の 他 流 動 負 債	17,430
無 形 固 定 資 産	620,137	固 定 負 債	7,185,500
投 資 等	14,677,516	退 職 給 付 引 当 金	7,185,500
長 期 前 払 費 用	14,654,826	負 債 計	43,122,784
差 入 保 証 金	22,690		
繰 延 資 産	—	(純資産の部)	
		株 主 資 本	123,365,900
		資 本 金	432,000,000
		利 益 剰 余 金	△ 308,634,100
		純 資 産 計	123,365,900
資 産 合 計	166,488,684	負 債 ・ 純 資 産 合 計	166,488,684